



お城がシンボルの三宝山。

7年ぶりに開放された山頂で、香南百貨店おひろめ市^①が開かれ、約40店舗の出店や趣向を凝らしたステージなどを約2千人が楽しみました。

高知市から家族で訪れた男性(41)は「昔、この遊園地のジェットコースターが日本で一番怖いとみんなに自慢していた」と、30年ぶりの景色に感慨深げでした。

かつて、三宝山の頂上は遊園地や西洋の古城風の展示施設などがあり、多くの家族連れなどで賑わっていました。遊園地は平成9年に閉園し、現在、頂上は閉鎖されていますが、依然として市のシンボリックな場所として人気があり、その活用を望む声は絶えません。

今回のイベントは、市商工会などで組織した「香南百貨店委員会」（山地善久委員長）が一年半ほど前から計画し、市主催の「香南ふれあい祭り」と合わせた開催が実現したものです。

10月
23日 土

ふれあいのいち再発見!

今年の会場は、5町最後となった野市町の「いちふれあいセンター」。三宝山頂での「香南百貨店おひろめ市」とともに、「再発見」をテーマに開催されました。

このお祭りをとおして、香南市の全ての人が笑顔になれる発見をと、食生活改善メニューや介護食の試食、乳がん専門医のミニ講演など、健康、防災、環境に関するさまざまな取り組みや提案が紹介されました。

また、折り紙や竹馬などの昔遊びや三宝山との両会場をつないだスタンプラリー、サンホールの舞台など多彩なイベントに、たくさんの方で賑わいました。

ふれあいセンターから三宝山頂へ、10分ごと
に運行した無料シャトルバスは、毎回満
員という盛況ぶり。この日、長い間閉鎖され
ていた三宝山の頂上から香南市を一望し、
何かを発見した方がいるのでは？

